

# 中小企業景気動向調査

〔2013年1～3月期の景況 / 4～6月期の予想〕

## 【調査要項】

実施期間:2013年2月22日～3月8日

調査対象:県内の当金庫のお取引先 973社(下記参照)

調査方法:郵送および面談によるアンケート調査

分析方法:業況、売上、収益、資金繰り、人手などについて、「良い」(増加など)と答えた企業割合から「悪い」(減少など)と答えた企業割合を差し引いた値(DI:Diffusion Index)を中心に分析

	製造業	卸売業	小売業	飲食業	建設業	不動産業	運輸業	サービス業	合計
対象先数	426	127	74	31	151	37	34	93	973
回答数	380	113	68	29	141	35	30	83	879
回答率(%)	89.2	89.0	91.9	93.5	93.4	94.6	88.2	89.2	90.3



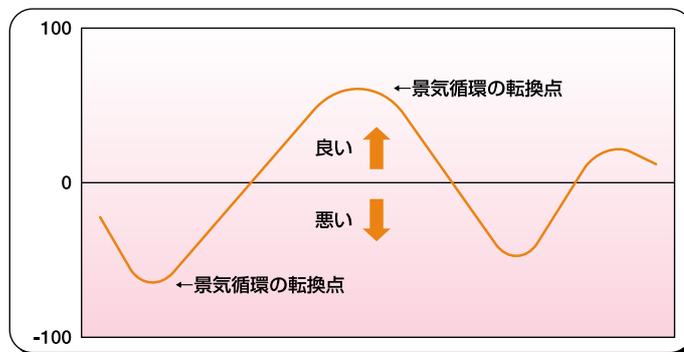
## DIの算出方法

〔業況判断DIの場合〕

業況を「良い」と答えた企業の割合から「悪い」と答えた企業の割合を差し引いて求める。DIがプラスかマイナスで業況を判断するほか、前回調査(3か月前)からどのように変化したかも重要で、景気循環の転換点を捉える視点で用いるのが望ましい。



$$45\% - 35\% = 10 (\%ポイント)$$



結果概要

1～3月期の景況

- ・ 製造業の景況感悪化、4四半期連続。非製造業は9.8ポイントの改善。
- ・ 自動車部品は大幅に改善。想定を超える新車販売などで。
- ・ 建設業は6年半ぶりにDIがプラスに。不動産業も2四半期ぶりのプラス。

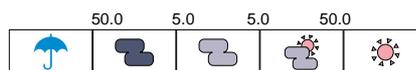
4～6月期の予想

- ・ 製造業はDI改善の見通し。
- ・ 非製造業は小幅な悪化を予想。

業種別天気図（業況判断DIによる）

業種	前期 (10～12月期)	今期 (1～3月期)	予想 (4～6月期)	業種	前期 (10～12月期)	今期 (1～3月期)	予想 (4～6月期)
全産業	23.7	18.7	16.3	印刷	10.0	41.6	25.0
製造業	25.3	26.8	20.7	食料品	17.3	14.8	14.8
非製造業	22.3	12.5	12.9	卸売業	22.4	22.3	11.8
自動車部品	53.4	23.2	30.6	小売業	34.9	35.3	25.4
機械器具部	14.4	29.5	21.8	飲食業	70.4	41.4	38.0
金属製品	27.5	18.4	11.5	建設業	6.6	10.1	8.7
窯業・土石	16.6	37.5	0.0	不動産業	14.8	14.3	2.9
木材・木製品	25.0	0.0	0.0	運輸業	35.5	3.5	21.5
繊維製品	14.2	25.9	7.4	サービス業	20.8	23.2	6.1

数値は業況判断DI



業況判断

製造業の景況感悪化 4四半期連続 非製造業は改善

〔全産業〕

- 1～3月期の企業の景況感を表す**業況判断DI**（業況を「良い」と答えた企業の割合から「悪い」と答えた企業の割合を差し引いた値）はマイナス18.7となり、10～12月期（マイナス23.7）に比べ5.0ポイント改善した。

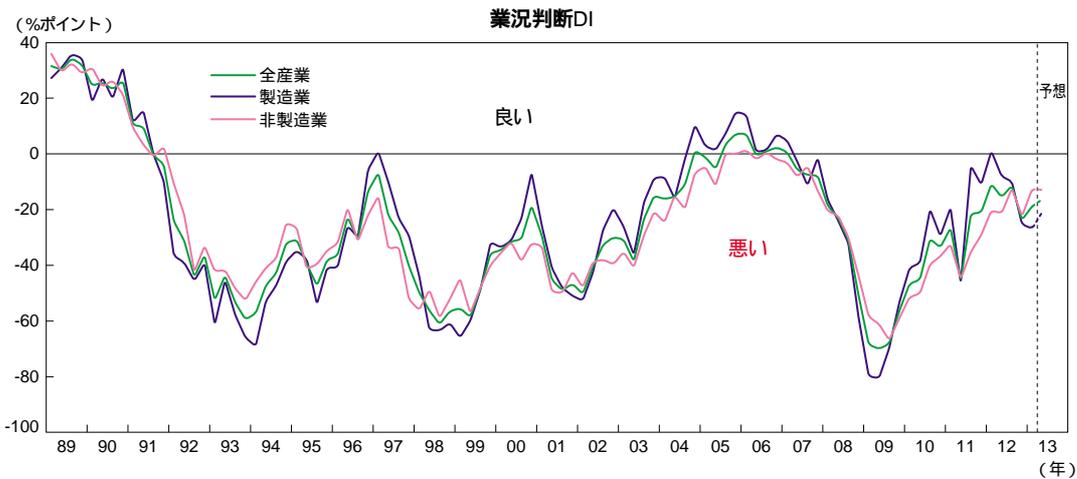
	前期	今期	予想	変化幅			
	〔10～12月期〕	〔1～3月期〕	〔4～6月期〕	前期	今期	今期	予想
全産業	23.7	18.7	16.3	5.0		2.4	
製造業	25.3	26.8	20.7	-1.5		6.1	
非製造業	22.3	12.5	12.9	9.8		-0.4	

（単位：%ポイント 〃はマイナス）

- 4～6月期の**予想業況判断DI**はマイナス16.3と、2.4ポイントの改善を見込んでいる。

〔製造業〕

- 業況判断DI**はマイナス26.8。10～12月期（マイナス25.3）に比べ1.5ポイント悪化した。悪化は4四半期連続。
- DIが改善したのは、自動車部品、金属製品、食品。悪化したのは、機械器具部品、窯業・土石、木材・木製品、繊維製品、印刷。
- 自動車部品は30.2ポイントの大幅改善。想定を上回る新車販売などが寄与した。
- 円安の進行で原材料価格が上昇した業種が目立つ。
- 予想業況判断DI**はマイナス20.7と、改善が見込まれている。自動車部品を除く、すべての製造業で改善を予想。窯業・土石、繊維製品で予想改善幅が大きい。



〔非製造業〕

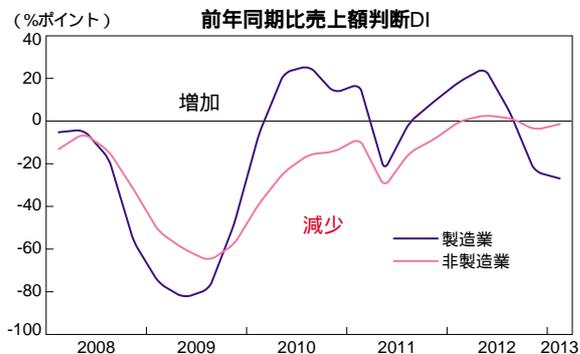
- ・ **業況判断DI**はマイナス12.5。10～12月期（マイナス22.3）に比べ9.8ポイント改善。
- ・ DIが改善したのは、**卸売業、飲食業、建設業、不動産業、運輸業**。悪化したのは、**小売業とサービス業**。
- ・ 飲食業、不動産業、運輸業は大幅に改善。運輸業の改善幅（32.0ポイント）は全業種のなかで最大。自動車部品などの輸送が増加したことが主因。
- ・ 不動産業のDIのプラスは2四半期ぶり。
- ・ 建設業は6年半ぶりにDIがプラスに。公共工事主体の企業、民間設備工事主体の企業、住宅建設主体の企業、いずれもマインドが好転。「業界が少し明るくなった」の声も。
- ・ **予想業況判断DI**はマイナス12.9と、0.4ポイントの小幅な悪化。ほぼ横ばいの見通し。
- ・ 不動産業はDIのプラスを維持する予想。

		1～3月期の業況		4～6月期の予想	
		改善した業種	悪化した業種	改善予想の業種	悪化予想の業種
製造業	製造業	自動車部品 金属製品 食料品	機械器具部品 窯業・土石 木材・木製品 繊維製品 印刷	機械器具部品 金属製品 窯業・土石 繊維製品 印刷	自動車部品
	木材・木製品と食料品は変わらず				
非製造業	非製造業	卸売業 飲食業 建設業 不動産業 運輸業	小売業 サービス業	卸売業 小売業 飲食業 サービス業	建設業 不動産業 運輸業

売上額・収益

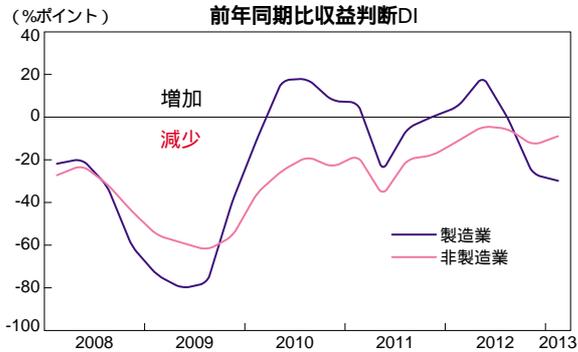
〔全産業〕

- ・ **前年同期比売上額判断DI**（売上額が前年同期と比べ「増加」したと答えた企業の割合から「減少」したと答えた企業の割合を差し引いた値）はマイナス12.4〔減少〕。マイナスは2四半期連続。
- ・ **前年同期比収益判断DI**（収益が前年同期と比べ「増加」したと答えた企業の割合から「減少」したと答えた企業の割合を差し引いた値）はマイナス17.9〔減少〕となった。3四半期連続のマイナス。



〔製造業〕

- ・ 前年同期比売上額判断DIはマイナス26.9〔減少〕。2四半期連続の減収。
- ・ 前年同期比収益判断DIはマイナス29.8〔減少〕。減益は3四半期連続。
- ・ 木材・木製品を除いたすべての業種で減収減益。



〔非製造業〕

- ・ 前年同期比売上額判断DIはマイナス1.4〔減少〕。
- ・ 前年同期比収益判断DIはマイナス8.9〔減少〕。
- ・ 建設業は増収増益。卸売業、小売業、飲食業、運輸業、サービス業は減収減益。

		前年同期に比べた売上額	
		増加した業種	減少した業種
製造業	↑ 木材・木製品		自動車部品 機械器具部品 金属製品 窯業・土石 繊維製品 印刷 食料品
非製造業	↑ 建設業		卸売業 小売業 飲食業 運輸業 サービス業
		不動産業は変わらず	

		前年同期に比べた収益	
		増加した業種	減少した業種
製造業	↑ 木材・木製品		自動車部品 機械器具部品 金属製品 窯業・土石 繊維製品 印刷 食料品
非製造業	↑ 建設業 不動産業		卸売業 小売業 飲食業 運輸業 サービス業

販売価格・仕入価格

円安で輸入品の価格上昇 幅広い業種で仕入価格に影響

〔全産業〕

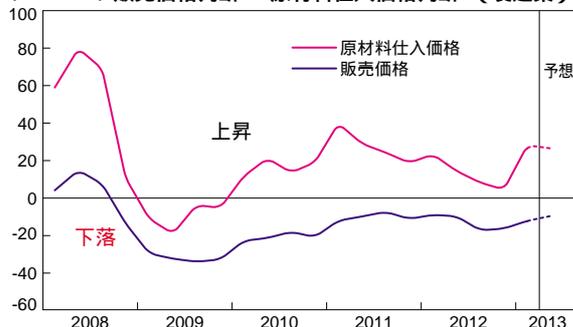
- ・ 販売価格判断DI（販売価格が3カ月前と比べ「上昇」と答えた企業の割合から「下落」と答えた企業の割合を差し引いた値）がマイナス5.3〔下落〕となる一方、仕入価格判断DI（仕入価格が3カ月前と比べ「上昇」と答えた企業の割合から「下落」と答えた企業の割合を差し引いた値）は31.1〔上昇〕となった。

- ・円高修正で輸入物価が上昇。幅広い業種で仕入価格に影響が出ている。

〔製造業〕

- ・ **販売価格判断DI**はマイナス12.4〔下落〕。
- ・ **原材料仕入価格判断DI**は28.0〔上昇〕。
- ・ 原材料仕入価格の上昇ほどには販売価格が上がっておらず、価格転嫁は進んでいない。

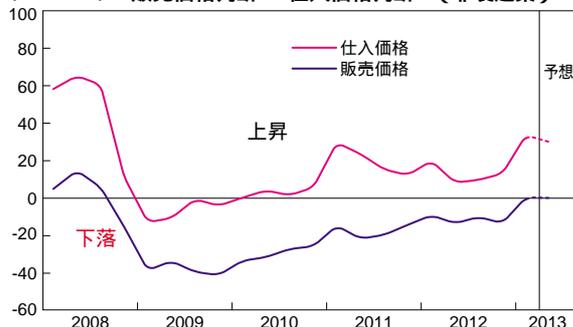
(%ポイント) 販売価格判断DI・原材料仕入価格判断DI(製造業)



〔非製造業〕

- ・ **販売価格判断DI**は0.2〔上昇〕。DIがプラスになるのは2008年7~9月期以来、4年半ぶり。ようやく下落傾向が収まった恰好。
- ・ **仕入価格判断DI**は33.4〔上昇〕。

(%ポイント) 販売価格判断DI・仕入価格判断DI(非製造業)



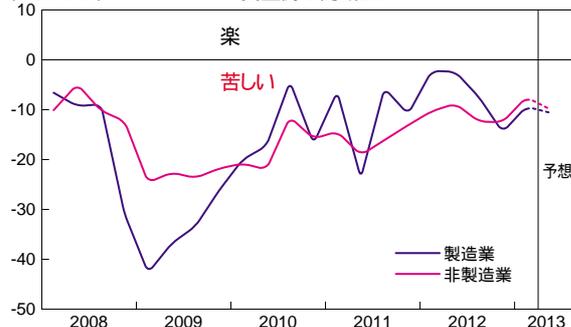
資金繰り

苦しい資金繰り続く 不動産業は在庫減少で楽に

〔全産業〕

- ・ **資金繰り判断DI** (資金繰りが3ヵ月前と比べ「楽」と答えた企業の割合から「苦しい」と答えた企業の割合を差し引いた値)はマイナス8.3〔苦しい〕となった。
- ・ **予想資金繰り判断DI**はマイナス10.2〔苦しい〕。

(%ポイント) 資金繰り判断DI



〔製造業〕

- ・ **資金繰り判断DI**はマイナス9.4〔苦しい〕。
- ・ **予想資金繰り判断DI**はマイナス10.6〔苦しい〕。

〔非製造業〕

- ・ **資金繰り判断DI**はマイナス7.5〔苦しい〕。
- ・ 不動産業は在庫の減少でプラス22.5〔楽〕に。
- ・ **予想資金繰り判断DI**はマイナス9.9〔苦しい〕。

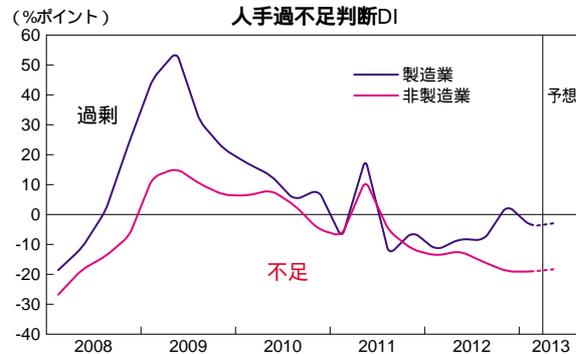
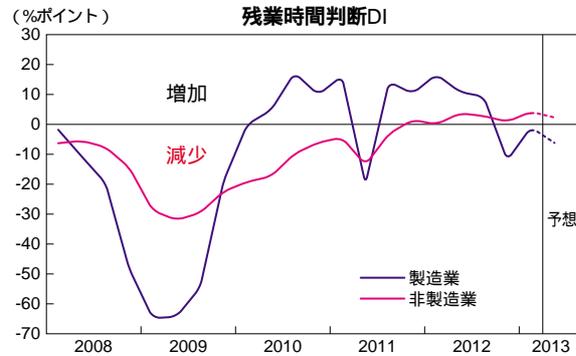
雇用

〔全産業〕

- ・ **残業時間判断DI**（残業時間が3カ月前と比べ「増加」と答えた企業の割合から「減少」と答えた企業の割合を差し引いた値）は1.9〔増加〕となった。増加は2四半期ぶり。
- ・ **予想残業時間判断DI**はマイナス1.4〔減少〕。
- ・ **人手過不足判断DI**（人手が「過剰」と答えた企業の割合から「不足」と答えた企業の割合を差し引いた値）はマイナス12.6〔不足〕となり、人手不足感が出ている。
- ・ **予想人手過不足判断DI**はマイナス11.6〔不足〕となっている。

〔製造業〕

- ・ **残業時間判断DI**はマイナス1.0〔減少〕。
- ・ **予想残業時間判断DI**はマイナス6.2〔減少〕。
- ・ **人手過不足判断DI**はマイナス4.0〔不足〕。
- ・ **予想人手過不足判断DI**はマイナス2.9〔不足〕。



		3カ月前と比べた残業時間	
		増加した業種	減少した業種
製造業	機械器具部品 金属製品 木材・木製品	自動車部品 窯業・土石 繊維製品 食料品	
	印刷は変わらず		
非製造業	卸売業 建設業 サービス業	飲食業 運輸業	
	小売業・不動産業は変わらず		

		人手過不足感	
		人手過剰	人手不足
製造業	自動車部品	機械器具部品 金属製品 窯業・土石 木材・木製品 繊維製品 印刷 食料品	
	卸売業 小売業 飲食業 建設業 不動産業 運輸業 サービス業		

〔非製造業〕

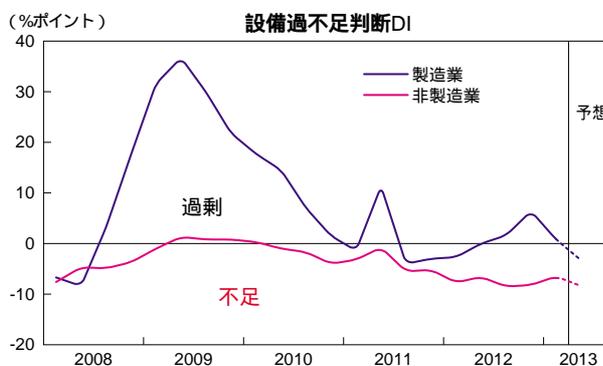
- ・ 残業時間判断DIは4.2〔増加〕。予想残業時間判断DIは2.3〔増加〕。
- ・ 人手過不足判断DIはマイナス19.1〔不足〕。予想人手過不足判断DIはマイナス18.3〔不足〕。

設備

〔設備投資の実施〕	製造業29.8%	非製造業25.8%
〔計画〕	製造業28.8%	非製造業21.6%

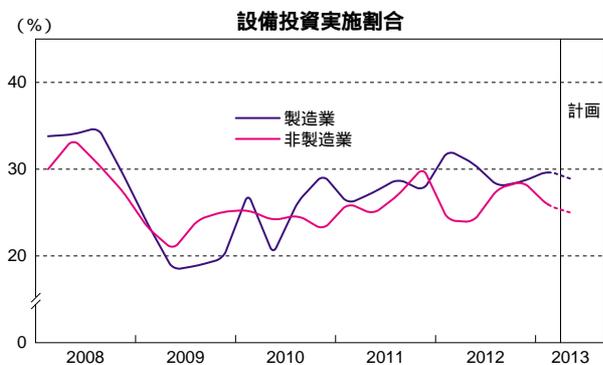
〔全産業〕

- ・ 設備過不足判断DI（設備が「過剰」と答えた企業の割合から「不足」と答えた企業の割合を差し引いた値）はマイナス3.1〔不足〕となった。
- ・ 予想設備過不足判断DIはマイナス6.1〔不足〕。
- ・ 1～3月期に設備投資（リース・レンタルを含む）を実施した企業は27.7%。
- ・ 4～6月期に設備投資を計画している企業は24.9%。



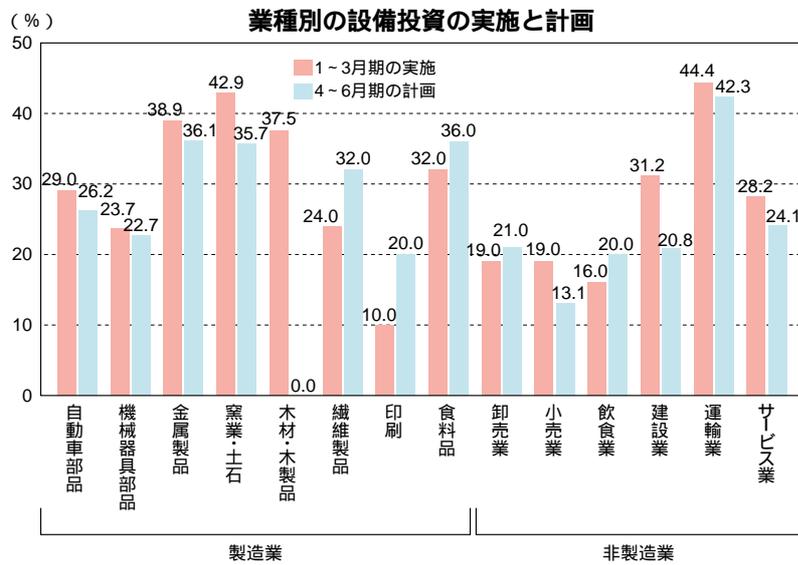
〔製造業〕

- ・ 設備過不足判断DIは0.8〔過剰〕となった。
- ・ 予想設備過不足判断DIはマイナス3.3〔不足〕。
- ・ 1～3月期に設備投資（リース・レンタルを含む）を実施した企業は29.8%。
- ・ 内訳としては、機械・設備の新增設が49.5%、機械・設備の更改が36.4%、車両27.1%などとなっている。
- ・ 設備投資の目的としては、老朽化に伴う更新が47.7%、能力増強が31.8%、合理化・省力化が24.3%などとなった。
- ・ 4～6月期に設備投資を計画している企業は28.8%となっている。

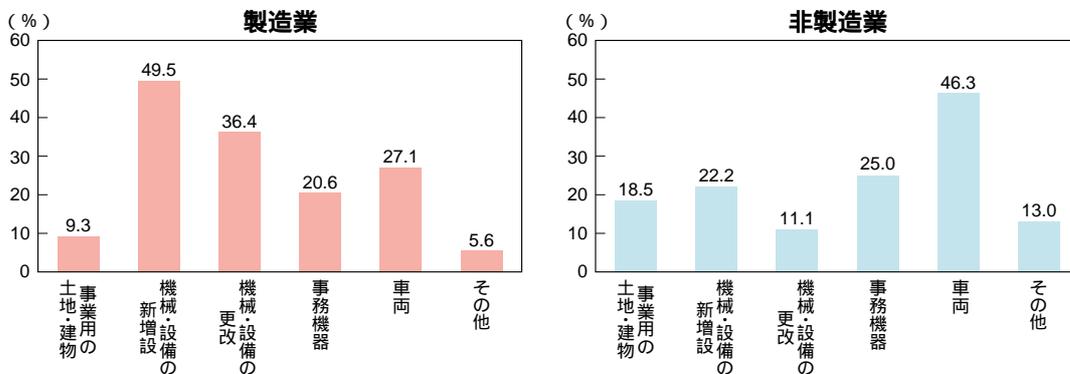


〔非製造業〕

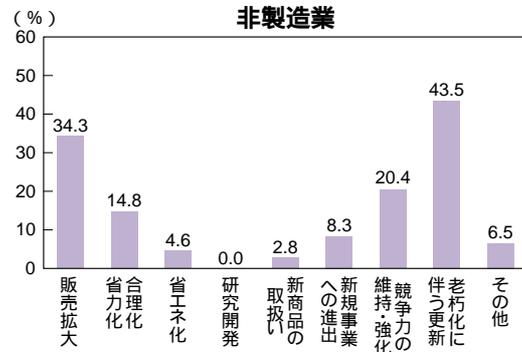
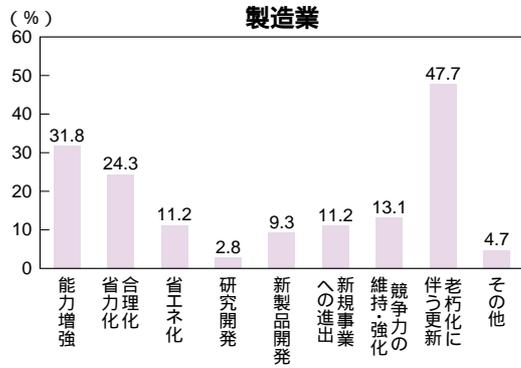
- ・ 設備過不足判断DIはマイナス6.5〔不足〕となった。
- ・ 予想設備過不足判断DIはマイナス8.4〔不足〕。
- ・ 1～3月期に**設備投資（リース・レンタルを含む）を実施**した企業は25.8%。
- ・ 内訳としては、**車両**が46.3%、**事務機器**が25.0%、**機械・設備の新增設**が22.2%、**事業用の土地・建物**が18.5%、などとなっている。
- ・ 設備投資の目的としては、**老朽化に伴う更新**が43.5%、**販売拡大**が34.3%、**競争力の維持・強化**が20.4%、**合理化・省力化**が14.8%などとなった。
- ・ 4～6月期に**設備投資を計画**している企業は21.6%となっている。



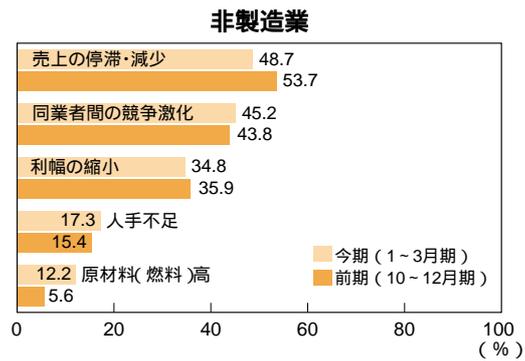
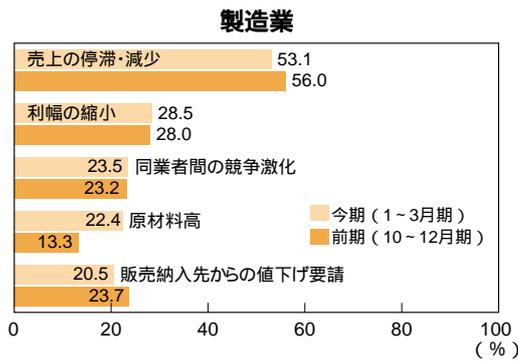
1～3月期の設備投資の内訳



1～3月期の設備投資の主な目的



経営上の問題点



当面の重点経営施策

